

二〇一七年一月二四日(参加者一三名)

路地小春人の気配す格子窓	たか子
縦の路地吹き抜ける空つ風	たか子
昼暗き商家の三和土冬灯	たか子
天窓を射抜くがごとき冬日かな	たか子
万葉の碑の文字ゆるき小春かな	たか子
ぶらぶらとゆく古町の路地小春	なおこ
環濠を埋むばかりの落葉かな	なおこ
句輩数珠に並びて路地小春	なおこ
幹ねじれたる老木に冬日射す	なおこ
冬天へ仁王立せる大榎	はく子
もみぢリース飾りて里の資料館	はく子
どの路地を選ぶも冬の風抜ける	はく子
駒つなぎ錆びし豪邸木の葉散る	はく子
万葉の歌碑に降り積む落葉かな	ぼんこ
声高き案内人の息白し	ぼんこ
大いなる梁が支へし冬館	ぼんこ
右左白壁映ゆる路地小春	ぼんこ

土間暗し冬日漏れくる煙出し	せいじ
いにしへのお白州といふ土間寒し	せいじ
まらうどで混む古町の路地小春	せいじ
庭に置く結界石の寒さかな	小袖
漆喰の白塀つづく路地小春	小袖
辻に立つガイドの笑みに冬ぬくし	小袖
冬晴や家並のあひに畝傍山	菜々
太格子つづく古町冬ぬくし	菜々
通し土間小さき天窓冬日洩る	菜々
人麻呂の歌碑にやまざる散紅葉	満天
冬の晴白漆喰の古町に	わかば

吟行句会みの選

二〇一七年一月二四日(参加者一三名)